

教員の業績			
職名		教授	学位
氏名	カナ	シオタニ ユミコ	役職名
	漢字	塩谷 由美子	
1. プロフィール		四国学院大学英文学士 南カリフォルニア大学応用言語学部修士課程修了	
2. 主な担当科目		日本語、基礎演習、就職特講	
3. 専門分野		日本語教育	
4. 主な研究テーマ		外国人留学生のアクティブラーニングによる能動的学習と論理的思考の育成 ビジネス日本語教育	
5. 主な研究業績	論文	<p>「日本企業で活躍する高度外国人材をめぐる現状—企業と高度外国人材の認識ギャップを中心に—」『富士論叢』第62巻第1号、東京富士大学学術研究会、2018年12月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』第2号、2018年3月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—直観的手法を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号、2017年3月（共著）</p> <p>「学部留学生を対象としたことばと文化の教育を考える—能動的学習の促進を目指す「日本事情」科目を通して—」『言語文化教育研究学会第2回研究集会 in 金沢 報告集』言語文化教育研究学会、2015年12月（共著）</p> <p>「大学教育における「日本事情」科目の位置づけに関する一考察：ディベートを用いた論理的思考育成の試み」日本語教育方法研究会誌 22(1)、日本語教育方法研究会、2015年3月（共著）</p> <p>「学部留学生対象の「日本事情」科目に関する一考察—日本文化・社会への能動的な関わりを促進する授業実践に向けて」『富士論叢』第58巻 第1号、東京富士大学学術研究会、2013年（共著）</p> <p>「能動的学習の促進を目指す外国人留学生の「日本事情」科目—多人数クラスにおけるディベートの導入とその検証—」『富士論叢』第57巻 第1号、東京富士大学学術研究会、2012年</p> <p>「ボランティアが参加する文法・会話練習の教室活動」『津田塾大学 言語文化研究所報』第26号、津田塾大学 言語文化研究所、2011年</p>	
	その他の研究活動	<p>「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状—メーカーにおける仲介人材に対する実態調査—」沖縄県日本語教育研究会第16回大会研究発表、2019年3月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第15回大会研究発表、2018年3月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—高度外国人材に対する実態調査「読む」「書く」活動を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第14回大会研究発表、2017年3月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—高度外国人材と企業担当者に対する実態調査を中心に—」インドネシア日本語教育学会、日本語教育国際研究大会、2016年9月（共著）</p> <p>「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—直観的手法を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第13回大会研究発表、2016年3月（共著）</p> <p>「学部留学生を対象としたことばと文化の教育を考える—能動的学習の促進を目指す「日本事情」科目を通して—」『言語文化教育研究学会第2回研究集会、2015年6月（共著）</p> <p>日本語教育方法研究会第44回研究会「大学教育における『日本事情』科目の位置づけに関する一考察—ディベートを用いた論理的思考育成の試み—」、2015年3月28日</p> <p>東京富士大学公開講座「外国人留学生の能動的学習の促進を目指して」、2013年11月29日</p> <p>日本語教育学会研究集会第10回関西地区「『日本事情』科目におけるディベートの導入—多人数クラスでの能動的な学習活動の促進を目指して—」、2012年3月</p>	
6. 所属学会		日本語教育学会、日本語教育学会ビジネス日本語研究会 津田塾大学 言語文化研究所 言語学習の個性性とその対応に関する研究会 初年次教育学会、日本語教育方法研究会、第2言語習得研究会	
7. 主な社会活動、資格			